

大分県医療ソーシャルワーカー協会企画

大分県医療ソーシャルワーカー協会
今尾 顕太郎

□企画の目的

：趣意書に述べられているように、現代社会が抱える「貧困と家族」の問題は複雑化し、多様化している。そして、我々は、厳しい社会的背景の中に、「貧困」の課題を抱える患者と「家族」に出会い、問題に直面する。しかしこのような事実直面しているにもかかわらず、我々は患者の「貧困」の現実を、社会的・構造的に捉えていたのであろうか。すでに、これらの問題は、個人や家族の自己責任だけに帰結するものではないと言われている。

今回の企画の目的は、「ソーシャルワーク実践の質の向上」とし、具体的には以下の3点に集約した。

- ①経済的問題の印象が強い「貧困」という言葉と、実際に包含している問題との解離を知る
- ②「貧困」に直面した専門職の援助の視点を知り、より具体的な問題として捉える
- ③社会構造や家族形態の変容などの広く大きな視点と、個別援助における視点をリンクさせ、総合的に問題を俯瞰する重要性に気づく

□企画内容

- ①日時：平成23年5月28日（土）講演A 10：10～11：30（80分）

「“貧困と家族”について考えるー大分県協会より、それぞれの視点からー」

おおいた大会での「現代社会における貧困の定義」は、「経済的困窮に加えて、人との関係性が希薄になっている状態」と規定。以下貧困はこの両側面を指すものとする。

- ・医療機関のソーシャルワーカー
(津久見中央病院・中村 賢介氏)
- ・地域包括支援センターのソーシャルワーカー
(臼杵市医師会立コスモス病院 川野 壮彦氏)
- ・地域生活の支援者
(おおいた地域若者サポートステーション 臨床心理士江口 敦子氏)
- ・研究者による調査研究の報告
(大分大学福祉社会科学部研究科准教授 垣田裕介先生)

以上